



ワールドマスターズゲームズ2021関西

第1次総合実施計画

2017.6.2



目次

はじめに	3
第1章 大会概要	
大会開催概要	5
公式競技一覧	6
開催地マップ	7
大会基本構想	8
大会マスコット	9
第2章 大会づくりの基本姿勢・テーマ	
大会づくりの基本姿勢	11
大会づくりのテーマ	12
レガシー基本構想	14
「インクルーシブな考え方を取り入れた大会づくりをめざす」基本方針	16
第3章 推進体制	
推進体制	18
第4章 大会開催に関する業務	
1. 大会機能の配置	21
2. 参加者申込・参加者受付	27
3. 公式競技	31
4. デモンストレーション競技	40
5. 開閉会式	42
6. 交流の場づくり	45
7. 安全対策・危機管理対策	48
8. 医療救護対策	52
9. 宿泊	55
10. 交通（輸送）	57
11. 観光・文化	59
12. 広報	60
13. 知的財産の活用と保護	63
14. 企業・団体協賛	64
15. ボランティア	66
16. 言語サービス	70
17. 財政	72
(参考) 推進スケジュール	
推進スケジュール	75



第1次総合実施計画書の位置付け

2021年5月、関西全域を舞台にして「ワールドマスターズゲームズ2021関西」が開幕する。

生涯スポーツの国際総合競技大会となる本大会をこれまでの歴史を塗り替える画期的な大会として開催し、大会を通じて多くの成果を遺すため、大会開催の推進母体として、2014年12月に、政府や日本体育協会をはじめとする関係団体、経済界をも含めたオールジャパン体制により関西ワールドマスターズゲームズ2021組織委員会を設置した。

組織委員会では、2015年5月に大会基本構想を取りまとめ、その中で「一人ひとりの挑戦と多様な交流の和をつなげ、地域の独自性や日本の伝統・文化を世界に発信し、次世代に夢をおくる祭典を創出する」という大会の基本理念を高らかに宣言するとともに、2016年3月には、大会基本構想の実現に向け、また大会開催までの期間に着実に準備を進めていくための枠組みとなる大会基本計画を策定した。

2016年10月には大会の骨格となる全32競技55種目の競技種目及び開閉会式の会場地を決定したところであり、今後は、大会参加者が快適に大会を楽しむことができるよう、開催地域が一体となって受入体制を整備していくとともに、大会基本理念の実現に向けた取組の具体化を加速化していくこととなる。

2017年度以降、組織委員会は大会運営全般についての調整や進行管理等の総合的な業務を、府県政令市実行委員会は競技運営のほか地域文化の発信や参加者の受入などの取組を行うこととし、複数の機関が役割分担をして主体性を発揮しつつも、一体的に大会づくりを推進していく。

また、多くの方に大会づくりに参画していただき、様々な成果を後世に遺していくため、今後は、我々の大会づくりの考え方を広く発信する。

本実施計画は、上記理由のため策定するものであり、また、大会開催の約4年前にあたることから、外部環境の変化を見極めつつ計画の具体化や改善をし、大会運営のガイドラインとして活用していくよう、大会づくりの方向性と基本的なスケジュールを示す内容とした。

今後、産官学をはじめ多くの方々の協力を得ながら、組織委員会及び府県政令市実行委員会が協調して本実施計画の具体化を進めていく中でも随時計画に改良を加え、よりよい大会としていく。

第1次総合実施計画の構成

■大会概要（第1章）

大会期間や開催競技種目など

■大会づくりの基本姿勢・テーマ（第2章）

すべての関係者の取組の方向性を一にするため、大会づくりの基本姿勢とテーマ、レガシー基本構想などについてまとめる。

■府県政令市実行委員会設立後の推進体制（第3章）

各取組別の推進体制を明確化する。

■大会開催準備に必要な各フレーム・機能の取組内容（第4章）

第2章の大会づくりの取組フレームをもとに、大会づくりの構成要素となる各フレーム・機能別の取組の方向性や内容の明確化、組織委員会及び府県政令市実行委員会の役割分担をまとめる。



第1章 大会概要

ワールドマスターズゲームズ2021関西



大会開催概要

■大会名（英語表記）

ワールドマスターズゲームズ2021関西 (World Masters Games 2021 KANSAI)

■主催

一般財団法人関西ワールドマスターズゲームズ2021組織委員会

■共催

公益財団法人日本体育協会

■期間

- 競技実施期間 2021年5月15日（土）～30日（日）
- 開会式 2021年5月14日（金）
- 閉会式 2021年5月30日（日）

■公式競技

全32競技55種目

■開会式及び閉会式会場

- 開会式 京都市
- 閉会式 大阪市

■参加対象者

概ね30歳以上とし、競技ごとに別に定める。

■参加者目標数

- 国内 30,000人
- 国外 20,000人 (合計) 50,000人

■参加者申込期間

2020年2月～2021年2月（予定）

■その他

- デモンストラレーション競技の実施



公式競技一覧

種別	競技	実施 予定回数	実施会場	実施地	競技会場(予定)	
正式競技	1 アーチェリー	アーチェリー	200	鳥取県	鳥取市	コナ、ユーラニオスタスアリーナパーク (鳥取県立中央総合運動公園)
	2 砲台競技	トラップ	1,000	京都府	—	京都府西宮市総合運動公園陸上競技場東側銃場、嵯峨野銃場
		ライフル	100	神戸市	—	六甲アイランド公園コース
		10mエアピストル	100	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園
		エアピストル	1,000	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園
	3 バドミントン	—	1,500	京都府	—	鳥取アリーナ(鳥取県立中央総合運動公園) / 六甲アイランド(神戸府立中央総合運動公園) / 京都府立中央総合運動公園
	4 柔道	競技種別	1,400	神戸市	—	神戸市立中央総合運動公園(神戸府立中央総合運動公園) / 鳥取アリーナ(鳥取県立中央総合運動公園)
		競技種別	1,700	京都府	宇治市、京都市	宇治市立総合運動公園 / 京都府立中央総合運動公園 / 鳥取アリーナ
	5 バスケットボール	—	1,000	神戸市	—	グリーンアリーナ神戸 (神戸府立中央総合運動公園) / 神戸市立中央総合運動公園 / 六甲アイランド
	6 ボウリング	—	100	徳島県	徳島市、高松市	スエヒロボウリングセンター、ジョイボウ
	7 テニス	ハードコート	600	京都府	京都市	久米川テニスセンター
		ソフトコート	200	徳島県	徳島市	徳島県総合運動公園
		ハードコート	200	京都府	京都市	津島公園テニスコート
		ソフトコート	1,000	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園
	8 自転車	ロードレース	600	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園
		トラック	500	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園
		BMX	1,000	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園
		BMX	100	大阪府	堺市	サウザンビーチ(大阪府立中央総合運動公園) (堺市立中央総合運動公園)
	9 ボクシング	—	400	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園
	10 サッカー	サッカー	1,500	京都府	—	グリーンアリーナ神戸 (神戸府立中央総合運動公園) / 六甲アイランド(神戸府立中央総合運動公園)
フットサル		1,000	京都府	—	六甲アイランド(神戸府立中央総合運動公園) / 六甲アイランド(神戸府立中央総合運動公園)	
11 空手	—	100	徳島県	徳島市、高松市、高松市、高松市	徳島アリーナ(徳島県立中央総合運動公園) / 高松アリーナ(高松市立中央総合運動公園) / 高松アリーナ(高松市立中央総合運動公園)	
12 ハンドボール	—	600	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
13 水泳	—	600	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
14 馬術	—	500	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
15 射撃	—	400	京都府	—	京都府立中央総合運動公園	
16 卓球	卓球	1,500	京都府	徳島市、神戸市、香川県	六甲アイランド(神戸府立中央総合運動公園) / 徳島アリーナ(徳島県立中央総合運動公園)	
	卓球	1,500	神戸市	—	六甲アイランド(神戸府立中央総合運動公園)	
17 体操	—	1,000	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
18 空手道	—	600	大阪府	大阪市	大阪府立中央総合運動公園	
19 モータースポーツ	モーター	200	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
	モーター	100	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
20 剣道	剣道	400	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
	剣道	200	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
21 ソフトボール	ソフト	200	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
	ソフト	200	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
22 スカッシュ	スカッシュ	1,500	京都府	—	スエヒロボウリングセンター	
	スカッシュ	1,500	神戸市	—	六甲アイランド(神戸府立中央総合運動公園)	
	スカッシュ	100	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
	スカッシュ	200	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
23 水球	水球	200	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
	水球	200	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
	水球	200	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
	水球	200	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
24 柔道	—	1,700	神戸市	—	グリーンアリーナ神戸 (神戸府立中央総合運動公園) / 他	
25 テコンドー	—	100	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
26 ラグビー	ラグビー	1,500	京都府	京都市、徳島市	六甲アイランド(神戸府立中央総合運動公園) / 徳島アリーナ(徳島県立中央総合運動公園) / 六甲アイランド(神戸府立中央総合運動公園)	
	ラグビー	1,000	京都府	京都市	六甲アイランド(神戸府立中央総合運動公園)	
27 トライアスロン	トライアスロン	1,200	徳島県	徳島市	徳島アリーナ(徳島県立中央総合運動公園)	
	トライアスロン	500	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
	トライアスロン	200	徳島県	徳島市	徳島アリーナ(徳島県立中央総合運動公園)	
28 射撃	—	600	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
29 バレーボール	バレー	1,000	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
	バレー	200	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
30 ウェイトリフティング	—	400	徳島県	徳島市	徳島アリーナ(徳島県立中央総合運動公園)	
31 オリンピック	バレー	500	京都府	京都市	京都府立中央総合運動公園	
	バレー	600	徳島県	徳島市	徳島アリーナ(徳島県立中央総合運動公園)	

- 正式競技：IMGAが指定する16競技と、過去大会を参考に組織委員会が選択した14競技
- オープン競技：正式競技以外の実施競技（日本や関西らしさをPRできる競技）



大会基本構想

■大会基本理念

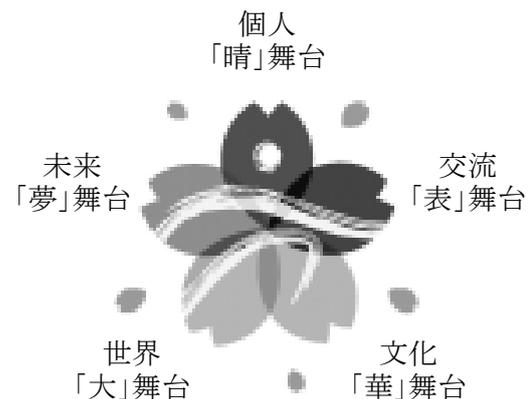
一人ひとりの挑戦と多様な交流の和をつなげ、地域の独自性や日本の伝統・文化を世界に発信し、次世代に夢をおくる生涯スポーツの祭典を創出する。

■大会テーマ

スポーツ・フォー・ライフの開花
(The Blooming of Sport for Life)

■大会コンセプト・エンブレム

- 個人（個性が輝く）「晴」舞台
一人ひとりの挑戦と可能性を開く
- 交流（多様性が交わる）「表」舞台
世代・地域・文化がつながる
- 文化（関西を魅せる）「華」舞台
関西の魅力と文化を発揮する
- 世界（グローバルを体感する）「大」舞台
国際色に溢れ感動を共有する
- 未来（将来に伝える）「夢」舞台
次世代にエネルギーと躍動感をおくる



■大会基本姿勢

大会基本理念の実現に向けた基本姿勢を次のとおり定め、基本姿勢の取組を推進し、レガシーとして未来へ継承する。

- 元気で活力ある生涯スポーツ社会の実現
高齢社会と人口減少が進展する我が国において、働き方も含めた健康志向のライフスタイルを通じ、元気で活力ある「生涯スポーツ社会」を実現する。
- 多様な交流を通じた相互理解の増進
互いを尊重し、大会参加者や地域も含めた多世代・多地域・多文化の交流を通じた相互理解を促進し、多様性の集結による共感と一体感を生み出す。
- オールジャパン体制で関西圏による広域開催
関西一円の広域開催という先駆的なスタイルで、豊かなスポーツ環境や文化資源及び観光資源を融合させ、オールジャパン体制でメガ・スポーツイベントの新たなモデル構築をめざす。
- 2019-2021年国際スポーツ大会の連携開催
ラグビーワールドカップ2019、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会などと連携した取組を推進することにより国際交流や地域活性化を促進する。
- アジア諸国との協力開催
アジア初の開催地として、アジア全体の友好化と活性化に貢献し、大会の成功と感動を共有する。
- 「はなやか関西」の世界への発信
関西の文化、観光、産業、環境など、関西の優れたコンテンツを発信し、インバウンドを強力に促進する。
- 日本を代表する文化を発信するための取組を幅広く展開
関西各地で育んできた豊富な文化資源を活かし、魅力ある日本文化を発信する。
- スポーツ力を通じて安全・安心で活力ある日本・関西を世界へ発信
東日本大震災から10年目の節目の年を迎え、国内外からの支援に対し感謝の意を表し、教訓を活かすため、スポーツの持つ人々を元気づけ、感動させる力を世界へ発信する。
- マスターズスポーツムーブメントの推進
産学官民の共同プロジェクトと位置づけ、マスターズスポーツムーブメントに対して、協力と共感を伴った推進力を創造する。
- プレイヤーズファーストの実現
国内外から集まった選手や家族を関西各地で歓迎し、大会参加者の目線に立ったサポート体制を充実し、最高のパフォーマンスと感動を共有できるようおもてなし文化を発揮する。



大会マスコット

「スフラ（Sufula）」

大会のエンブレムである桜をモチーフとするスポーツの妖精で、大会テーマの「スポーツ・フォー・ライフ」の頭文字が名前の由来である。スポーツを愛する人（する・みる・ささえる）を応援してみんなをハッピーにすることを特技とする。



※「スフラ」は、歩、10kmロード、駅伝を含む



第2章 大会づくりの基本姿勢・テーマ

ワールドマスターズゲームズ2021関西



大会づくりの基本姿勢

世界最大規模の一般参加型国際競技大会であるワールドマスターズゲームズには、2つの大きな特徴がある。

一つは、参加型の「する」大会として100カ国以上の国・地域から幅広い世代の選手が参加し、開催地域で多世代・多地域・多文化の交流が活発に繰り広げられる点であり、他の競技大会とは大きく異なる。

もう一つは、「スポーツと観光を楽しむ」大会として参加者がスポーツと交流に加えて開催地域の観光や文化体験なども同様に楽しむ点であり、スポーツツーリズムの側面を有している。過去実績として国外参加者の平均滞在日数は約16日に渡る。

これらの特徴から、ワールドマスターズゲームズは開催地域へ多くの経済効果をもたらすだけでなく、地域の文化・観光資源の発信や、地域力の向上など多方面で成果を得ることができる。

そして、本大会は、①「アジア初の開催」、②関西エリアを開催地とする「初の広域開催」、③5万人の目標選手数と2週間を超える大会期間の設定による「過去最大規模」の大会、④ラグビーワールドカップ2019と2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に続く「大規模国際スポーツ大会の連続開催」と、これまでの大会にない大きな特徴を持つ。

開催地域の広がりや大会規模の大きさは開催効果をより大きくすることができ、日本におけるスポーツ振興・文化振興の機運が高まるこの時期を歴史的なチャンスとして活かし、大会の開催効果を最大限に引き出すため、組織委員会では、「スポーツ・フォー・ライフ（人生を豊かにするスポーツ）」の理念を基軸に、関西・日本の持続的な発展・活性化に資する歴史的な大会とすることを大会のテーマとした。

これらの実現のため、大会づくりにあたっては、競技運営や参加者交流の場の提供など大会運営を円滑に進めていくとともに、生涯スポーツ社会の実現や関西・日本の文化・産業の活性化、地域の創生など、後世に成果を引き継ぐためのレガシーの取組についても重要な要素とし、これらを積極的に推し進めていくことを基本姿勢として、すべての関係者で共有する。



大会づくりのテーマ

大会づくりの基本姿勢を体現していくとともに、広域開催を大会の強みに変えて広く成果を遺していくため、①「すべての参加者に快適で満足できる大会を提供する」、②「大会の一体感を創出する」、③「大会づくりの担い手を増やす」、④「スポーツ愛好家を増やす」、⑤「大会の情報発信力を向上させる」の5つをテーマとして設定する。

第4章の大会開催に関する業務は、これらのテーマを反映して業務の詳細内容をまとめたものである。

今後は、組織委員会及び府県政令市実行委員会をはじめ、すべての関係者がこれらのテーマを大会づくりの根幹をなすものとして念頭に置き、レガシー創出委員会などの専門委員会及び有識者会議で出された意見や、ワールドマスターズゲームズ2017年オークランド大会、パンパシフィックマスターズをはじめとする世界的なマスターズ大会を参考にして、創意工夫を凝らして大会づくりを進めていくこととする。

①「すべての参加者に快適で満足できる大会を提供する」

本大会は国内外から5万人の選手参加を目標とし、随行者も含めると15万人以上となる過去最大規模の参加を見込む。

また、健常者と障がい者が同じフィールドで競技することなどインクルーシブの考え方を取り入れて、障がい者や高齢者の参加に配慮した大会づくりを進めており、多世代・多地域・多文化と実に多様な方が開催地域を訪れることとなる。

これらすべての大会参加者が国籍や年齢、性別、障がいの有無に関係なく個々人の特性に応じて快適に大会とツーリズムを楽しむことができるよう、多様な方々の様々なニーズを的確にとらえ、会場づくりやおもてなしメニューの創出など受け入れ態勢の整備に取り組む。

また、これらの取組は、大会の成功だけでなく、地域社会の活性化、関西全体での来訪者の受入体制の整備、共生社会の実現への理解の促進など大会終了後にも引き継がれる成果となるものであり、開催地域をあげたものとしていく。

②「大会の一体感を創出する」

大会参加者が競技会場だけでなく開催地域全体を楽しんでいただき、関西・日本に再度訪れたいと思っていただくなど大会終了後にも引き継ぐことのできる成果とするため、各開催地域全体を盛り上げるとともに、それらを有機的に結びつけて大会の一体感を創出していく。

そのためには、準備の早い段階から大会開催に向けた各開催地域の機運を高める取組を進めるとともに、各地域の取組を束ねる施策の実施など、機運を実行に移していくための受け皿づくりを進めていく。

これらの取組を通じて、開催地域をはじめ関西・日本の魅力の向上や地域間での新たな連携の創出など様々な成果にも繋げていく。



③「大会づくりの担い手を増やす」

快適な競技環境の提供に加え、開催地域の特色を出したおもてなしや交流の場の提供、ツーリズムメニューの提供などの様々な取組により、大会参加者に今までにない最高の体験をしていただき、また、それらの取組を地域力の向上など次世代に引き継ぐ成果として遺していくため、大学、地域住民、ボランティア、企業など様々な分野の方に大会づくりの担い手となっていただき、それぞれの強みを融合して大会づくりを進めていく。

そのためには、様々な方が大会づくりに携われる受け皿づくりをするとともに、担い手の参画を促進するため、本大会の特徴や大会開催の意義などを広く周知していく。

④「スポーツ愛好家を増やす」

大会がアジア初開催であることや平日にも競技を行うことから、参加者5万人の目標を達成するため、大会の準備段階から日常的にスポーツをする愛好家を増やす取組を行い、大会の参加に繋げていくとともに、スポーツ人口の拡大やスポーツ活動の習慣化・日常化につなげ、生涯スポーツ社会の実現や、スポーツ実施率の向上、健康寿命の延伸、障がい者の社会参画など社会的課題の解決にも寄与していく。

⑤「大会の情報発信力を向上させる」

大会が持つ様々な意義に反して日本国内における大会の認知度は十分でない状況であり、上記の取組効果を最大限に発揮するためには、組織委員会及び府県政令市実行委員会の両者がそれぞれの持ち味を生かした広報活動に取り組んで、幅広い世代に対して大会の認知度を上げていくとともに、過去大会の参加者や他のマスターズ大会とのネットワークを拡大させて、大会の持つ魅力と大会の情報発信力を向上させていく。



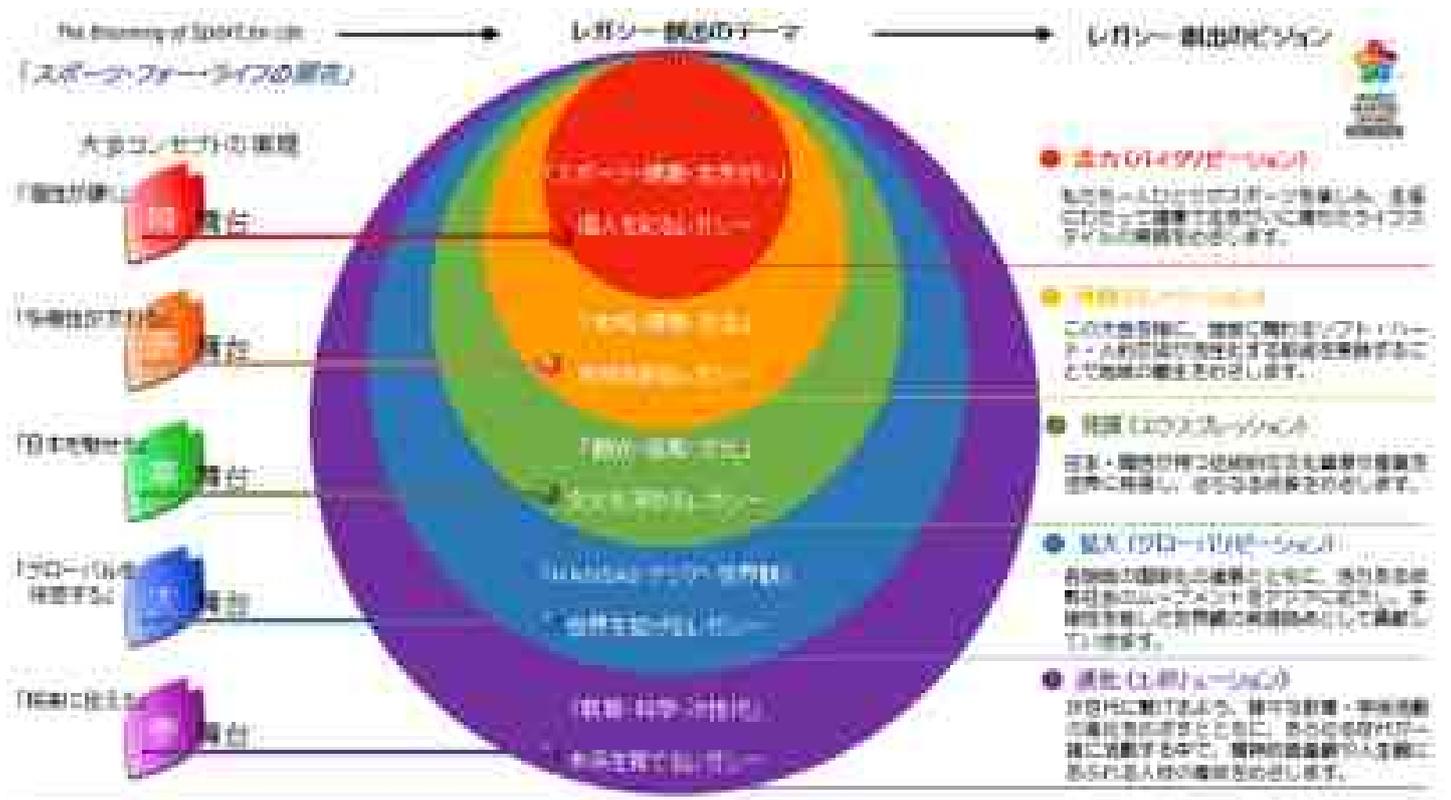
レガシー基本構想

～2021は、未来を躍動させる。～

ワールドマスターズゲームズ（以下「WMG」という。）第10回目の節目となる本大会は、WMG史上、初の日本開催、初のアジア開催、そして初の複数都市による広域開催となることから、WMGの新たな歴史を創る大会であるとも言える。

本大会のレガシーの創出にあたっては、過去のWMGの実績を継承するとともに、本大会の特徴を活かし、各分野の関係者が連携してアクション（取組）を展開していくことが重要と考える。そのため下記の項目を基本視点としてレガシー創出の計画づくりを進めていく。

- **新たなレガシーの創出**
過去に開催された大会固有のレガシーを継承するとともに、生涯スポーツの先進地関西での広域開催となる本大会の特徴を活かす
- **相乗レガシーの協創**
ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピックと連携し全体効果を高める
- **ローカルレガシーの創出とグローバルレガシーの誘発**
関西各地の多様性と独自性を重視した「ローカルレガシーの創出」をめざすとともに、これらの取組を日本国中に広め、アジア・世界に向けて積極的に発信していくことで、世界における「グローバルレガシー」の創出に貢献する
- **レガシーの共同実現**
創出されたレガシーが、人や地域にしっかりと根付き未来に引き継がれるよう、その創出にあたっては、多くの個人や関係団体の主体的な参画を促し、連携しながら、様々なプロジェクトを積極的に展開する
- **インクルーシブな考え方の推進 <重点項目>**
個々人の特性に応じて、一緒に楽しみ交流することができるスポーツ大会のモデルケースをめざす



1. 個人を彩るレガシー：「スポーツ・健康・生きがい」の活力（バイタリゼーション）

ビジョン

私たち一人ひとりがスポーツを楽しみ、生涯にわたって健康で生きがいに満ちたライフスタイルの実現をめざします。

目指すべき方向

スポーツ	ライフステージに応じたスポーツ実施人口の拡大	子どもから高齢者までの各ライフステージにおいて、個人の多様なニーズに対応した「する」スポーツ活動を推進することで、スポーツ・フォー・ライフの実現をめざします。
健康	活動的な健康長寿社会の創造	開催を契機として、スポーツに親しむ機会を拡充させることで、健康寿命の延伸に繋がり、活力にあふれる健康長寿社会づくりに寄与します。
生きがい	生きがいに満ちた生涯活躍社会の実現	誰もが自らの可能性と自己実現を追求し、生きがいを感じることができる躍動感にあふれた生涯活躍社会の実現を目指します。

2. 地域を創るレガシー：「地域・環境・社会」の再創（リノベーション）

ビジョン

この大会を機に、地域に関わるソフト・ハード・人的交流が活性化する取組を実践することで地域の創生をめざします。

目指すべき方向

地域	交流型地域社会の活力再生	大会準備を進める中で、地域の人々に共通の目標と連帯の絆が生まれ育まれることで、人々が集い、快適で豊かなライフスタイルを実現できる地域社会を再生します。
環境	地域環境の質的成熟化	地域に現存する様々な資源価値を再確認するとともに、環境保全、防災機能、ユニバーサルデザインなどを質的に高め、市民生活に末永く貢献する住みやすい街づくりを推進します。
社会	広域連携による地域社会の活性化	広域開催のメリットを活かし、地域や組織間の交流を活性化し全国を先導する新たな関西広域モデルを発信します。

3. 文化を深めるレガシー：「観光・産業・文化」の発揮（エクスプレッション）

ビジョン

日本・関西が持つ文化資源や産業を世界に発信し、さらなる成長をめざします。

目指すべき方向

観光	日本・関西が持つ観光・魅力の表出	自然、歴史、食、文化資源が集積する世界的観光地としての魅力を、おもてなしの心を添えて発揮し、日本・関西ファンの増加とインバウンドのさらなる拡大を図ります。
産業	既存産業の活性化と新産業分野の成長	スポーツ・健康産業を軸に、大会関連産業への波及効果や国際展開を生み出す新機軸を創出し、国内経済の持続的発展に貢献します。
文化	新たな成熟文化の発信	日本・関西が有する多様な文化とマスターズ文化が融合することで、新たな成熟文化を創造し、世界に発信することで「成熟した日本・関西文化圏」を実現します。

4. 世界を拓けるレガシー：「KANSAI・アジア・世界観」の拡大（グローバルゼーション）

ビジョン

各地域の国際化の進展とともに、活力ある成熟社会のムーブメントをアジアに拡大し、多様性を有した世界観の発信拠点として貢献していきます。

目指すべき方向

KANSAI	KANSAIブランドの向上と地域の国際化	関西の国際化への対応促進や人々の国際的視野と感覚を高めると同時に、海外における日本・関西の存在感を高め、KANSAIブランドの向上を加速させます。
アジア	アジアへのマスターズスポーツムーブメントの拡大	アジア初の開催地となる関西が、アジアにおけるマスターズスポーツムーブメントと生涯スポーツの拠点となり、アジア全体の友好と活性化に貢献します。
世界観	多様性を有した世界観の拡大と国際貢献	多様な文化や異なる価値観が交わる機会を活かし、互いを認め受け入れる包容力や、共感と一体感に満ちた世界観を学び育みます。

5. 未来を育てるレガシー：「教育・科学・次世代」の進化（エボリューション）

ビジョン

次世代に繋げるよう、様々な教育・学術活動の進化をめざすとともに、あらゆる世代が一緒に活動する中で、精神的価値観や人生観にあふれる人材の育成をめざします。

目指すべき方向

教育	教育活性化によるエンパワーメント	大会開催のためのボランティア教育やホスピタリティ教育を通じて、支援や共感に関わるエンパワーメント（能力開花）を促進し、我が国の共助・支援文化を深化させます。
科学	科学振興とJAPANインテリジェンスの発信	大会に関連する様々な学術的連携の拡大を促進し、超高齢社会に対応した科学的イノベーション（新機軸）を加速させ、先駆的な知的財産として世界と未来に発信します。
次世代	活力ある人生観の啓発と未来像の継承	マスターズ世代からユース世代に対して活力を伴う成熟化の価値を伝え、躍動感と生きがいに満ちた人生観を啓発し、未来に向けて継承します。



「インクルーシブな考え方を取り入れた大会づくりをめざす」基本方針

ワールドマスターズゲームズ2021関西では、誰もが参加できる生涯スポーツの国際総合競技大会としての特徴を活かし、一緒に“する みる ささえる”をキーワードの一つとし、誰もが参加できるインクルーシブな考え方を取り入れた大会づくりをめざしていく。

インクルーシブという言葉には、年齢、性別、能力や障がいの有無等に関係なくという意味が込められており、個性に応じて様々な人が、大会を通じて楽しみながら生きがいを持つことができる場を創出することで、スポーツを通じた共生社会等社会課題の解決に寄与するとともに、インクルーシブな考え方や仕組が大会終了後にもレガシーとして引き継がれることをめざして、以下の基本方針に基づき取組を推進する。

■競技会の運営と実施

障がい者が参加することができる公式競技を決定するとともに、デモンストレーション競技において個性に応じて参加できる競技の実施や、競技会の中で発表の場を創出し、一緒に、競技・観戦・交流ができる機会の創出をめざす。そのために、各会場において具体の検討を進める。

<取組例>

- ・多様な参加者が競技会場で交流できる場の創出
- ・同じフィールドで競技を行い、共に競い合える場の創出
- ・パラリンピック種目などの実施
- ・障がい者競技の審判員、指導員の育成促進
- ・競技会のプログラムの中で、競うのではなく発表をする場の創出
- ・年齢、性別、能力や障がいの有無に関わらず参加できるデモンストレーション競技の実施

■大会の企画や運営

一緒に“する みる ささえる”をベースに、個性に応じて大会に参加できることを基本方針とし、様々な参画者が関与できる大会運営をめざす。

<取組例>

- ・大会を通じて様々な人が交流ができる場の創出
- ・開閉会式等の式典で様々な個性が融合したパフォーマンスを検討
- ・障がい者のボランティアへの積極的な参加啓発
- ・企業や関係団体の障がい者ボランティアへの参加を促進し、交流の場を設ける事の検討
- ・障がい者の参加に応じた配慮や心配りができる大会づくりの推進
- ・海外の障がい者スポーツ競技者への積極的な広報



第3章 推進体制

ワールドマスターズゲームズ2021関西



■基本方針

大会開催の準備にあたっては、大会全体の効果を最大限に引き出すため、関係者全員が同じ目標を共有し、各関係者が持つノウハウや強みを発揮して協力連携することが重要であり、それらを実現するための推進体制を整備する。

■推進体制

● 組織委員会及び府県政令市実行委員会

大会開催の準備にあたり、各分野の個人や団体が参画する組織委員会及び各府県政令市実行委員会を推進体制の中心に据えて、関係者の協力連携を図っていく。

・組織委員会

2014(平成26)年12月に、国・地方自治体・経済界・スポーツ関係団体・大学関係をはじめ様々な分野の個人や団体が参画する大会組織委員会を設立した。理事会及び常任委員会では、法人としての意思決定や大会準備及び運営における重要な事項について協議、調整を図ることを目的に開催する。

・府県政令市実行委員会

2016(平成28)年の競技種目及び会場の決定に伴い、開催地域の府県政令市ごとに実行委員会を設立し、開催地域における様々な分野の関係者が協力連携して開催地域の強みを生かした取組を進める。

また、府県においては、開催競技の着実な準備・運営を推進し、地域における開催効果を高めるため、開催地市町(競技)単位での実行委員会を設置するなどの推進体制を整備する。

● 連絡協議会(仮称)

推進体制の中心を担う組織委員会及び府県政令市実行委員会の事務局で構成する連絡協議会(仮称)を設置し、各機関の進捗状況や役割分担の確認、方向性の共有などを綿密に行う。

● 関係団体との連携

組織委員会は、スポーツ庁、その他関係省庁、日本体育協会をはじめ、各種関係団体等と連携し、推進体制を構築する。

● 多くの人々が参画できる環境づくり

大会開催によってもたらされるレガシーやその他の大会効果の最大化を図るためには、大会の準備段階から各分野の専門家をはじめ関係者の意見等を大会計画等に取り入れていくことが重要であり、関係者全員で大会を創り上げていくため、各種の専門委員会やワーキングチームなどを適宜設置するなど、本大会の取組について活発に議論・提案できる環境づくりを行う。

■業務の分担

推進体制の中心となる組織委員会と府県政令市実行委員会が大会準備に必要な業務を分担して、各業務を行う。



<業務区分の考え方>

◇組織委員会の業務

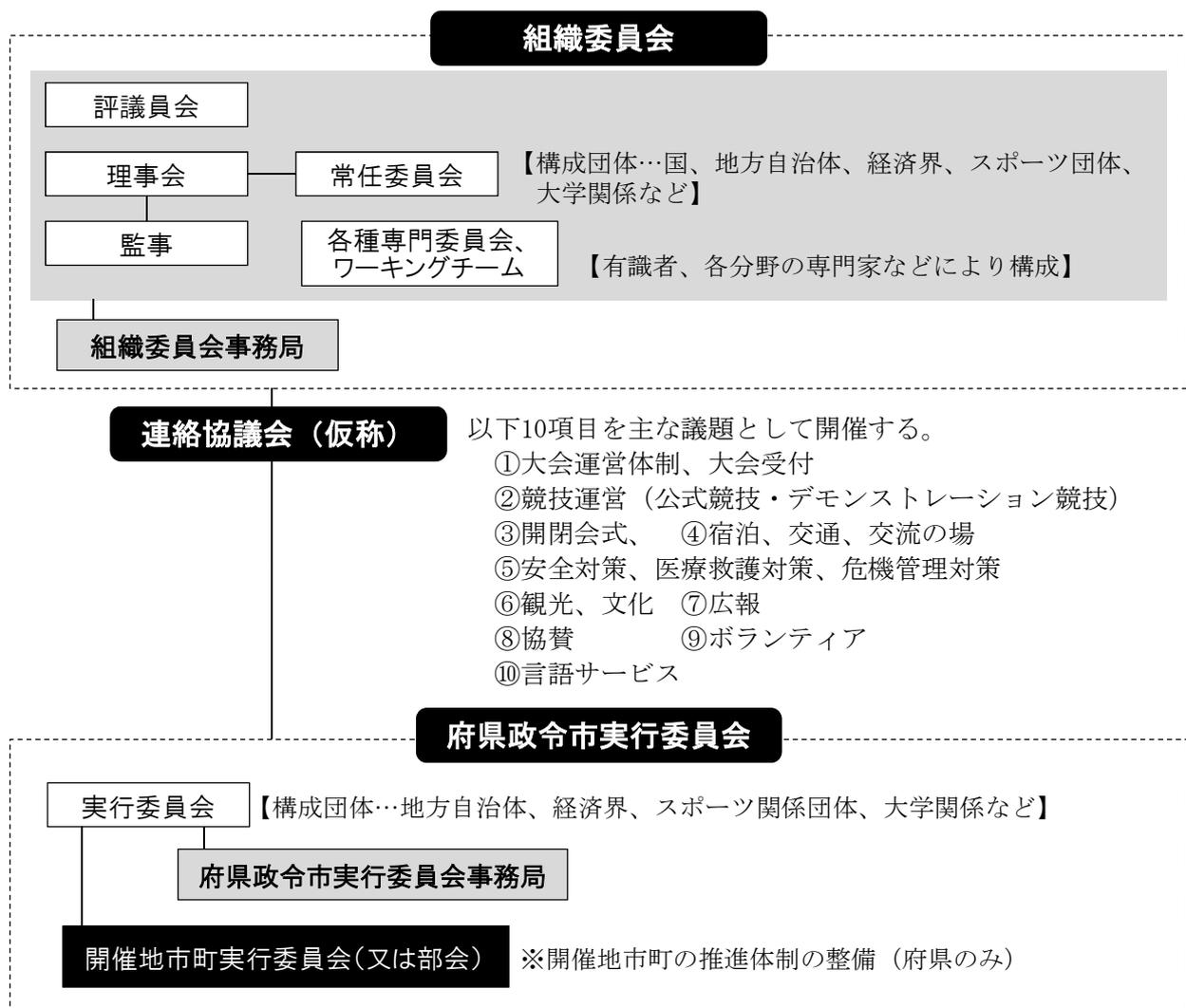
- ①広域的な業務推進の基本となる計画及び指針の策定並びに当該計画の実施及び推進に必要な総合調整に関する業務
- ②大会本部の運営等、広域的・総合的な大会の準備運営に関する業務
- ③府県政令市実行委員会に対する指導、助言、情報提供、連絡調整等の業務
- ④開閉会式等の府県政令市実行委員会との共同実施
- ⑤IMG A（国際マスターズゲームズ協会）との連絡調整業務

◇府県政令市実行委員会の業務

- ①公式競技種目の準備・運営
- ②デモンストレーション競技の準備・運営
- ③開閉会式等の組織委員会との共同実施
- ④地域文化の発信や開催地域内での大会参加者の案内対応・おもてなしメニューの創出など、地域独自の取組

■実施体制図

組織委員会及び府県政令市実行委員会を推進体制の中心に据えて、各関係者が協力連携を図りながら大会準備を進めていく。また、必要な場合は各担当ごとに会議体の設定を行うことも検討する。





第4章 大会開催に関する業務

ワールドマスターズゲームズ2021関西

**■基本方針**

本大会の運営は、組織委員会と府県政令市実行委員会の複数主体により実施体制を構築することから、各組織の役割や責任の所在を明確にするとともに、時期・業務内容に応じて必要な大会機能を適切な場所に配置し、円滑な大会運営と参加者がストレスなく楽しむことができるプレーヤーズファーストの大会を実現する。

大会期間中の大会機能及び運営体制**■大会期間中における会場について**

● 大会総合本部

大会期間中、組織委員会・府県政令市実行委員会は大会総合本部を設置し、円滑な大会運営に努める。

● オープニングビレッジ・センタービレッジ

『交流』を楽しみにしている参加者が多い本大会において、交流の場を提供するとともに、受付やオフィシャルグッズ販売などの大会運営上必要な機能を置く場として、オープニングビレッジ・センタービレッジを開設する。

【設置場所】

- ① オープニングビレッジ・・・開会式会場付近（京都市内）【2021年5月12日～5月14日】
- ② センタービレッジ・・・関西エリアの中心地（大阪市内）【2021年5月15日～5月30日】

● オフィシャル案内所

組織委員会は、関西エリアのゲートウェイ等に設置し、競技会場や観光地へのアクセス情報、ネット接続情報の提供などを行う。

● 交流の場

広域開催であることから、競技実施期間中は府県政令市実行委員会が主体となり各開催地域内で交流ができる場所を設置する。

● ローカル案内所

府県政令市実行委員会は競技会場地や観光地へのアクセスを考慮した場所に地域の特色を活かし、おもてなしの趣向を凝らした案内所を設置する。

■スケジュール

スケジュール	内容
2017年度	
	【組織】 オープニングビレッジ・センタービレッジ設置場所の決定
2018年度	
	【組織】 オープニングビレッジ・センタービレッジの想定機能・業務における方針策定
	【共通】 大会総合本部における機能配置及び運営体制の検討
2019年度	
	【共通】 組織委員会と府県政令市実行委員会の大会総合本部の設置場所の決定及び計画作成
2020年度	
	【共通】 各会場運営マニュアルの作成
	【共通】 大会総合本部の設営準備
2021年度	
	【共通】 大会総合本部設置
	【組織】 オープニングビレッジ・オフィシャル案内所を開設
	【実行】 交流の場・ローカル案内所を開設
2021年度	ワールドマスターズゲームズ2021関西



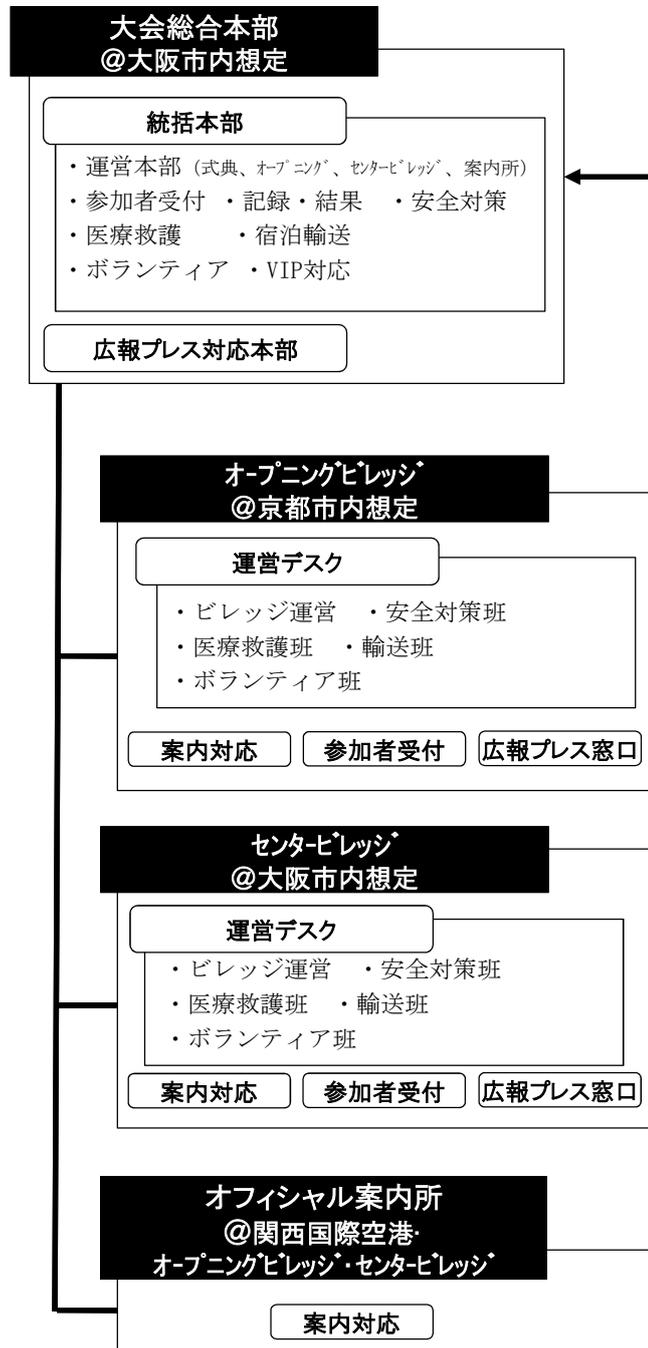
■大会総合本部・各開催地総合本部・各会場の主な業務内容

◎案内対応	
各会場	参加者などへの大会情報等の案内対応
◎参加者受付	
大会総合本部	全参加者の参加者受付に関する統括・進行管理
府県政令市実行委員会総合本部	府県政令市実行委員会が担当する会場の参加者受付に関する統括・進行管理
各会場	参加者受付（大会受付・競技受付）の実施・名簿管理
◎記録・結果	
大会総合本部	府県政令市実行委員会総合本部の結果を確認し、大会公式ホームページ上で公表
府県政令市実行委員会総合本部	各会場からの競技記録情報を結果集約し、大会総合本部に送信及び連携を行う
各会場	各会場の競技記録の集約し、府県政令市実行委員会総合本部へ送信及び連携を行う
◎安全対策・危機管理対策	
大会総合本部	広域災害・テロ等発生時の対応、各会場での事故等の情報集約、緊急時プレスリリース
府県政令市実行委員会総合本部	府県政令市実行委員会が担当する会場の自主警備統括、事故等の情報集約、大会総合本部への報告
各会場	各会場における自主警備、事故災害等発生時の対応、府県政令市実行委員会総合本部への報告
◎医療救護対策	
大会総合本部	各会場での医療救護事案の集約、重度な医療救護事案への対応、緊急時プレスリリース
府県政令市実行委員会総合本部	府県政令市実行委員会が担当する会場の医療救護事案統括、重度な事案の大会総合本部への報告
各会場	各会場における医療救護事案対応、府県政令市実行委員会総合本部への報告
◎宿泊輸送	
大会総合本部	宿泊・広域輸送に関する統括
府県政令市実行委員会総合本部	各開催地の宿泊・輸送に関する統括
各会場	宿泊・輸送に関する業務
◎広報プレス対応	
大会総合本部	プレス受付窓口（プレス証発行・管理）、大会情報のプレスリリース、緊急時記者会見
府県政令市実行委員会総合本部	府県政令市実行委員会が担当する会場のプレス受付窓口（プレス証発行・管理）
各会場	各会場におけるプレス対応
◎ボランティア	
大会総合本部	組織委員会が担当する会場の全ボランティアの情報を把握
府県政令市実行委員会総合本部	府県政令市実行委員会が担当する会場の全ボランティアの情報を把握
各会場	各会場に従事するボランティアの受付・管理
◎VIP対応	
大会総合本部	管轄する各会場におけるVIP関係者の統括
府県政令市実行委員会総合本部	

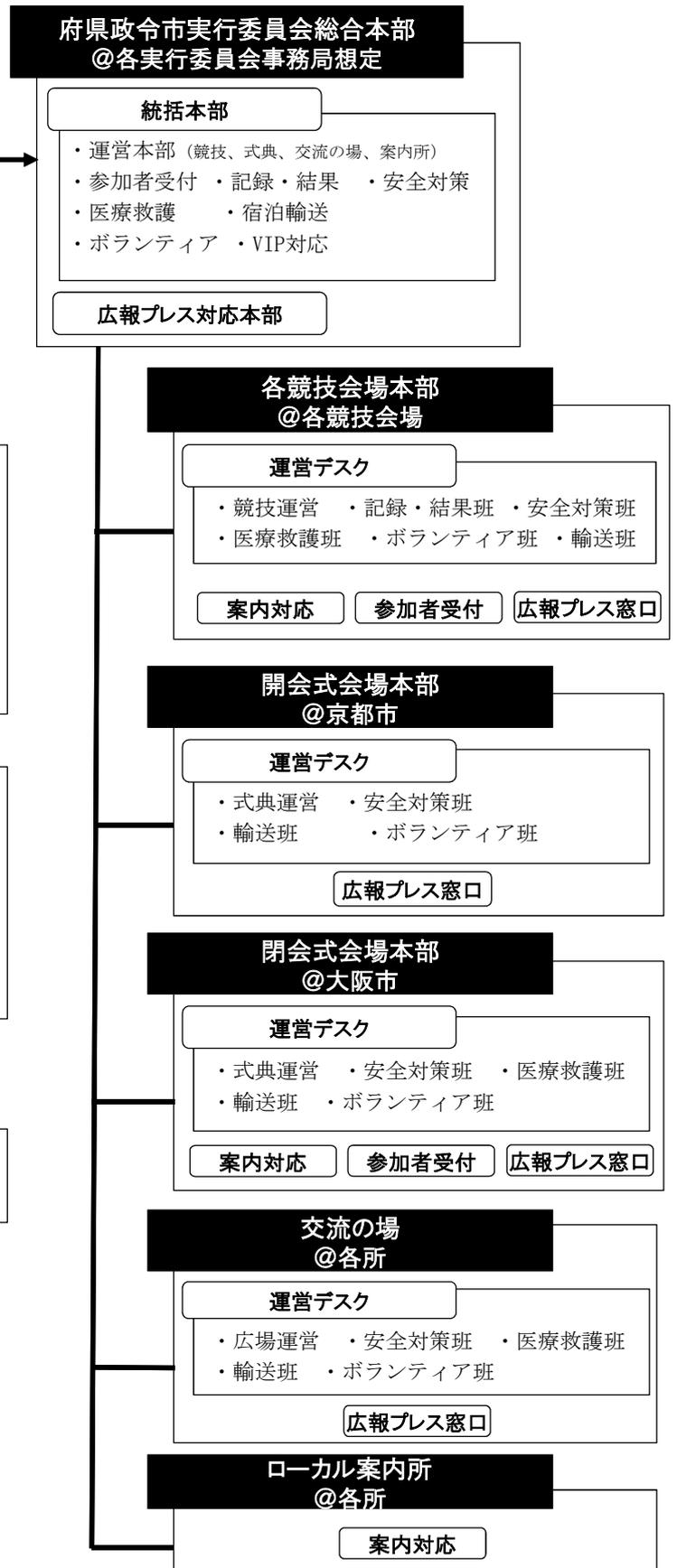


運営体制図について

◆組織委員会



◆実行委員会





案内所

■基本方針

本大会は広域開催であることから、公共交通網が複雑であることや観光地などの情報量も多く、大会参加者に十分かつ分かりやすい情報を提供することが必要である。そのため、大会公式ホームページなどで情報提供を行い、いつ・どこでも情報を入手できる環境を整備することのほか、特に訪日観光客からニーズの高い場所に設置する案内所での情報提供を大会づくりの重要な機能として位置付ける。

大会参加者によって会場までのアクセスルートは様々であることから、案内所については、関西全体のゲートウェイとなる場所に設置するほか、各府県政令市内においても、競技会場へのアクセスも考慮して必要な場所に設置する。

案内所の機能は、大会基本計画に記載のある“おもてなし文化を発揮した受け入れ態勢を整備すること”を念頭に、国内外に関わらず関西に足を踏み入れた大会参加者を歓迎し、各地域の趣向を凝らしたものとすることを目標とする。

また、言語対応については本大会における言語サービス提供の基本指針に基づき、日本語・英語をメインに今後の広報戦略においてターゲットとなる国の言語についても積極的に取り入れていく。

組織委員会運営案内所

- 組織委員会が運営管轄する案内所をオフィシャル案内所（仮称）とする。
- 訪日観光客からニーズの高い、関西エリアのゲートウェイとなる場所に設置する。参加者のエントリー状況を考慮して競技会場及び観光地へのハブ機能をもつ場所への設置についても検討していく。
- 大会基本計画に記載のある“おもてなし文化を発揮した受け入れ態勢を整備すること”を念頭に、国内外に関わらず関西に足を踏み入れた参加者を歓迎する案内所とする。
- 関西全体の観光案内やツーリズムメニューの提供など、広域開催において必要不可欠である一体感の醸成にも繋げ、関西の魅力を点から面にする取組の一つとしてとらえる。

■想定機能

● 大会公式ガイドブックの活用

本大会についての必要な情報をまとめたアプリの紹介やガイドブックを配布し、案内所に訪ねてきた大会参加者に対し案内・説明を行う。

● 競技日程の情報提供

- ・ 競技日程は大会公式ガイドブックを活用して案内する。
- ・ 本人の出場日時については、専用タブレット（エントリーシステム内の受付状況及び選手の出場日程が閲覧可）で確認し、案内する。

● Free Wi-Fiアクセススポットの設置

-大会公式ガイドブック掲載案-

- ・ 関西アクセスマップ（競技会場・主要観光地）
- ・ 大会日程と会場一覧（競技・式典等）
- ・ 大会関連イベント紹介（飲食店連携・文化事業）
- ・ 各府県政令市の紹介（歴史・飲食等）
- ・ その他

■設置場所(案)

● 関西国際空港

関西最大規模を誇る国際空港であり、国内外の大会参加者が多く利用すると予想される。

● センタービレッジ

センタービレッジの設置予定場所である大阪市内は各種のハブ機能を持つため、国内外大会参加者が多く利用すると予想される。また、センタービレッジの盛り上げにも寄与する。



府県政令市実行委員会運営案内所

■基本方針

- 府県政令市実行委員会が運営管轄する案内所をローカル案内所（仮称）とする。
- 組織委員会が運営する案内所とは別に、競技会場へのアクセスも考慮して必要な場所に設置する。
- 地域の特色を活かし、おもてなしの趣向を凝らした案内所とする。
- 運営における事項（設置数・業務内容等）及び費用は府県政令市実行委員会が負担する。ただし、設置場所については地域差を考慮する点から組織委員会との事前調整を必要とする。
- 組織委員会からは大会公式ガイドブック及びそれにかかるスタッフ運営マニュアルを配布する。
- 組織委員会の協賛企業と調整が必要となる事項は、組織委員会の承認を必須とする。

■想定機能

- **大会公式ガイドブックの配布・説明**
本大会についての必要な情報をまとめた大会公式ガイドブックを配布し、必要に応じて案内・説明を行う。
- **競技日程の情報提供**
競技日程は大会公式ガイドブックを活用して案内する。
- **Free Wi-Fiアクセススポットの設置（既存物があればそれを活用）**
- **観光・交通情報等の情報提供**

■設置場所(案)

- **既存観光案内所との連携**
大会開催エリアの既存観光案内所と連携し、大会参加者及び関係者の対応を行う。既存案内所・案内スタッフと連携することで、設置・教育にかかる費用負担を軽減することができる。また、大会参加者にとってもその土地・地域を把握しているスタッフが対応するので、欲しい情報がすぐに手に入り、滞在期間中のストレス軽減にもつながる。
- **交流の場に併設**
府県政令市実行委員会が独自に設置する交流の場に案内所スペースを設ける。大会参加者や関係者が来場し更なる賑わいの場所となる。
※競技会場にも案内機能を設けることにより、会場にいる大会参加者の利便性の向上につながる。



■業務分担表

項目	業務概要	組織委員会	実行委員会
案内機能内容の決定		◎	◎
案内所運営計画作成	案内所運営方針の策定	◎	—
会場の決定	案内所会場の設置場所決定・各会場との調整	◎	◎
	案内所会場の決定・使用申請	◎	◎
	案内所運営マニュアルの策定（共通部分）	◎	—
開設準備	スタッフの確保、設営手配、ネットワークの構築、備品の調達	◎	◎
	大会公式ガイドブックの作成及び配送	◎	○
実施	案内所運営	◎	◎

■スケジュール

スケジュール	内容
2017年度	
	【組織】 案内所運営方針の策定
	【共通】 既存観光案内所や関係機関との連携体制構築
	※方針の内容案：設置場所の選定条件について、想定業務について等
2019年度	
	【共通】 運営における詳細事項の検討 (設置場所・設置期間・設置箇所数、体制、業務内容等) ※会場の仮使用申請
	【共通】 設置場所・設置期間の決定
2020年度	
	【組織】 運営マニュアル・大会公式ガイドブックの作成
	【共通】 スタッフ研修
	設営手配、備品調達、ネットワーク構築等
2021年度	
	【組織】 大会公式ガイドブックの配送
2021年度	ワールドマスターズゲームズ2021関西

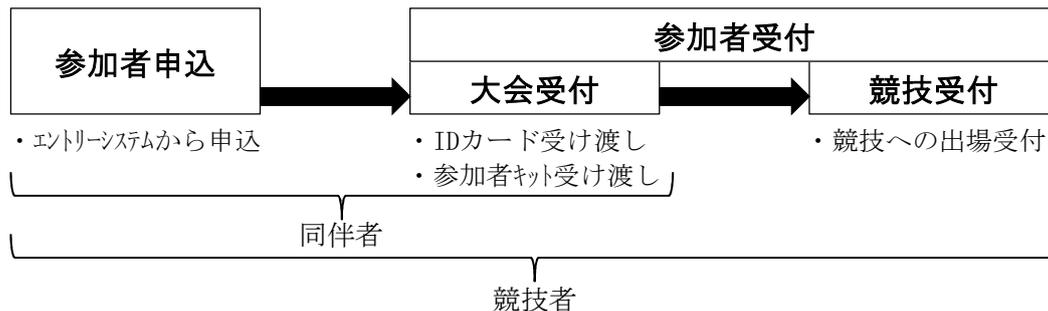


■基本方針

参加者申込を行うエントリーシステムについては、リピーターが多い大会特性を踏まえ、過去大会のエントリーシステムに備わる機能を可能な限り踏襲するとともに、年齢、国籍などを問わず誰もが分かりやすいものとする。また、大会開催時の出場登録受付、競技の組合せ、コールセンター等の機能とのスムーズな連携を実現できるシステムの構築をめざす。

参加者申込期間は、過去大会の設定期間を踏襲して、2020年2月～2021年2月を予定し、2019年に最終決定をする。

参加者受付場所については、広域での開催を考慮し、メインの会場を1か所設置するほか、各競技種目の会場にも設置する。



参加者申込

■業務内容

1 参加者申込

(1) エントリーシステムの構築

参加者申込はインターネット上にエントリーシステムを構築する。

①エントリーシステムの仕様書作成

- ・エントリーシステム概要、搭載機能、委託業務内容及び範囲の決定

②エントリーシステム構築に必要な事項の仮設定

組織委員会と府県政令市実行委員会は以下の事項について仮に設定する。(2019年度に正式設定予定)

- ・参加者申込受付期間
- ・競技別実施要項(競技種目・種別、カテゴリー、定員、競技上の規定、参加資格など)
- ・競技日程と組み合わせ
- ・参加料金(キャンセルポリシー、特別参加料金、各種割引及び参加特典グレードを含む)
- ・参加料金の決済方法
- ・交通手段の提供方法

③システム開発及びテスト運用

- ・システム開発、カスタマイズ
- ・セキュリティ対策
- ・動作確認、入力テストなど

④システム導入・配備作業

- ・組織委員会、府県政令市実行委員会への導入・配備
- ・システム概要書、取扱説明書作成
- ・操作マニュアル及び操作研修の実施
- ・業務サポート、ヘルプデスク設置

◎エントリーシステムに搭載する機能(予定)

	機能	内容
参加者向け	大会エントリー機能	大会に参加するために必要な個人情報等の登録を行う
	競技エントリー機能	競技に参加するために必要な関連情報等の登録を行う
	マイページ機能	自身のエントリー状況の確認、大会本部からのお知らせ等を受け取る
	コミュニティページ機能	チーム組成、練習試合等に向けた参加者同士の交流ができる
運営者向け	関係帳票等作成公開機能	競技関連資料、組み合わせ、お知らせ等を作成、公開できる
	競技記録等作成公開機能	競技の記録や結果等を作成、公開できる
	入金管理機能	入金の確認と入金者の紐づけ、必要に応じて返金手続き等ができる
	FAQ機能	メールで問い合わせを受け付け、FAQ集を作成、更新できる



(2) 参加者申込受付

①参加者申込受付準備

- ・組織委員会に参加者申込本部を設置する。
- ・組織委員会参加者申込本部にヘルプデスクを併設する。
- ・問い合わせ内容により府県政令市実行委員会と連携する。

②参加者申込受付実施

- ・組織委員会はエントリー状況の管理を行い、適宜府県政令市実行委員会と連携して、参加者申込本部兼ヘルプデスクを運用する。
- ・情報管理マニュアルを作成し、参加者情報等のセキュリティ対策を実施する。

■役割分担

- エントリーシステムは、組織委員会が全体設計、構築を行う。
- エントリーシステムの構築にあたり、組織委員会は府県政令市実行委員会と協議のうえ、以下の項目を仮決定する。
【組織】・参加者申込受付期間 ・参加料金 ・参加料金の決済方法 ・交通手段の提供方法
【実行】・競技別実施要項
【共通】・競技日程と組み合わせ
- エントリーシステム公開後の府県政令市実行委員会の役割については「3. 公式競技」を参照。

■業務分担表

項目		業務概要	組織委員会	実行委員会
参加者申込	参加者申込計画策定	エントリーシステム仕様書の作成	◎	—
		エントリーシステム構築に必要な事項の仮設定	◎	◎
	システム開発	エントリーシステム設計・プログラミング	◎	—
		エントリーシステムテスト運用・調整	◎	◎
	システム導入	エントリーシステム導入・配備作業	◎	—
	参加者申込受付準備	参加者申込本部兼ヘルプデスク設置	◎	—
	参加者申込受付実施	エントリーシステム運用・対応	◎	○

■スケジュール

スケジュール	内容
2017年度	
	【組織】 エントリーシステムの仕様書作成
	【組織】 エントリーシステムの構築（～2020年2月）
	【共通】 エントリーシステム構築に必要な事項の仮設定
2019年度	
	【共通】 エントリーシステム構築に必要な事項の正式設定
	【組織】 エントリーシステムのテスト運用
	【組織】 参加者申込本部兼ヘルプデスクの設置
	【共通】 参加者申込受付開始
2021年度	ワールドマスターズゲームズ2021関西



参加者受付

■業務内容

◎大会期間中の参加者受付について

大会期間中に、参加者は大会受付と競技受付の2回の受付を行わなければならない。なお、同伴者は大会受付のみ必要となる。

	内容	受付場所	受付期間
大会受付	全参加者を対象とし、IDカード及び参加者キットを渡す	オープニングビレッジ	・2021年5月12日(水)～2021年5月14日(金)
		センタービレッジ	・2021年5月15日(土)～2021年5月30日(日)
		競技会場又は近隣施設	・競技受付に準ずる
		開会式会場	・2021年5月14日(金)
		閉会式会場	・2021年5月30日(日)
競技受付	競技者を対象とし、競技に必要な配布物を渡す	競技会場又は近隣施設	・競技ごとに設定(競技開始日の前日、又は当日)

1 参加者受付計画作成

受付場所、受付で必要となる手続き及びその手法、組織委員会と各府県政令市実行委員会の体制等の計画を作成する。

- ・各会場の受付場所、期間、手続き内容を調整、決定。
- ・エントリー時の各会場受付人数を確認し、適正なスタッフ体制の構築。
- ・受付会場の設営、エントリーシステムとの連動ネットワーク確立。

2 参加者受付場所の決定

組織委員会及び府県政令市実行委員会は、連絡協議会において受付場所の調整、決定をするとともに、会場の確保を行う。

3 参加者案内計画作成

大会情報及び競技関連情報等の案内について、その手法及び組織委員会と各府県政令市実行委員会の体制等の計画を作成する。

- ・大会情報
組織委員会が大会に関する基本情報等を作成し、参加者へ通知。
- ・日程及び組合せ
実行委員会が受付締切後、日程と組合せ作成。組織委員会が取りまとめ、参加者へ通知。
- ・その他
大会及び競技に関する変更情報、追加情報は各々が作成し、組織委員会が参加者へ通知。

■役割分担

- 組織委員会は、オープニングビレッジ、センタービレッジにおける受付会場を設置、運営する。
- 府県政令市実行委員会は、競技会場又は近隣施設、開閉会式会場における受付会場を設置、運営する。

■業務分担表

項目	業務概要	組織委員会	実行委員会
参加者受付	参加者受付計画作成	◎	—
	大会受付	◎	◎
	競技受付	—	◎
	参加者案内通知	◎	◎



参加者キット

■業務内容

1 参加者キット

(1) 参加者キット企画

- ①参加者キットは、大会公式ガイドブック及び大会公式グッズを1セットとして、全参加者に渡すものとする。
- ②また、各開催地域のオリジナルグッズや、協賛社関連グッズ等、その他配布物の配布については別途配布方針を作成し、それに基づき対応する。

(2) 参加者キット配送計画

参加者キットのセット作業及び配送作業については、今後連絡協議会において方針を決定する。

■役割分担

- 組織委員会は、参加者キットの企画作成及びその他配付物の配付方針を決定する。
- 組織委員会は、府県政令市実行委員会と調整の上、作成数量、会場ごとの割り振りを決定する。

■業務分担表

項目		業務概要	組織委員会	実行委員会
参加者キット	参加者キット計画	参加者キット計画の作成	◎	—
		参加者キットの内容決定	◎	—
		協賛社関連ノベルティ等の内容決定	◎	—
		その他配付物（各開催地オリジナル）の申請・承認	◎	○
		その他配付物（各開催地オリジナル）の決定・作成	—	◎
	参加者キット作成	キット等作成業者の選定・デザイン校正	◎	—
		作成数量、会場ごとの割り振り決定	◎	○
セット・配送	セット・配送	◎	◎	

■スケジュール

スケジュール	内容
2017年度	
	【組織】 参加者受付計画の作成
2018年度	
	【共通】 参加者受付場所の検討・調整
	【実行】 受付会場にかかる調整事務
	【共通】 受付会場の決定
2019年度	
	【組織】 参加者キット計画の作成
	【組織】 参加者キット、協賛社ノベルティ等の内容決定
	【共通】 その他配布物の申請・承認・決定
2020年度	
	【共通】 参加者キット制作
	【共通】 参加者キットのセット・配送作業
2021年度	
	【共通】 受付会場の設営
	【組織】 参加者案内通知
2021年度	ワールドマスターズゲームズ2021関西



■基本方針

各府県政令市実行委員会は、開催地市町村及び府県競技団体等と緊密な連携を図り、広く府県市町村民の積極的な参加と協力を得て、参加選手が日頃の力を十分発揮できるよう确实かつ効率的な競技運営に努める。

また、健常者と障がい者が共に競う競技や障がい者部門を設定するなど、一緒に競技、観戦、交流できる機会の創出をめざすインクルーシブの考え方を取り入れた競技運営に努める。

- 公式競技は、正式競技30競技53種目とオープン競技2競技2種目を合わせた32競技55種目（P6公式競技一覧参照）とし、国内外から5万人の参加を目標とする。
- 競技の参加にあたっては、国を代表するのではなく、個人や個々のチームとして参加するものであり、国籍、言語、文化、年齢等にかかわらず、すべての参加者が個人の特性に応じて競技や交流を楽しめる競技運営に努める。
- 実力に関係なく誰もが参加できるよう、競技ごとに競技レベル別カテゴリ及び5歳から10歳間隔等の年齢別カテゴリの設定など競技に関する必要事項を定めた競技別実施要項を作成する。
- 競技の運営は各府県政令市実行委員会が行い、「競技運営準備マニュアル」に基づき、确实、計画的に準備を進める。
- 競技運営に係る競技役員等の編成は、「競技役員等編成方針」に基づき、各競技会の実状に則した編成を行う。
- 競技施設及び用具は、可能な限り既存の施設・用具を使用するものとし、競技用具については「競技用具整備基本方針」に基づき、競技運営に支障がないよう計画的に整備する。
- 競技記録の収集・速報は、「記録業務基本方針」に基づき、競技団体と連携を図り、迅速かつ正確に処理する。



競技別実施要項の作成

■業務内容・役割分担

- 各府県政令市実行委員会は、組織委員会及び競技団体等と協議の上、競技別実施要項を作成する。
- 組織委員会は、競技別実施要項についてIMGAの承認を受け、大会公式ホームページに公開する。
- 競技別実施要項には少なくとも以下の項目を記載することとし、それぞれの競技において必要な事項を追加する。
 - ① 競技日程（競技開催日、時間）
 - ② 競技会場（会場名、所在地）
 - ③ 競技形式（種目・種別、年齢区分、性別、参加人数、競技レベル区分、個人・団体、障がい者部門、競技規則、試合方法等）
 - ④ 参加資格（安全面等を考慮し、必要に応じて設定）
 - ⑤ 表彰（カテゴリー別に1～3位まで授与等の記載）
 - ⑥ 参加上の注意（服装、装備品、義務、安全面等の注意事項）
 - ⑦ その他（必要に応じて記載）

■業務分担表

項目		業務概要	組織委員会	実行委員会
競技別実施要項	作成	府県競技団体と協議の上（府県競技団体は中央競技団体と協議）、競技別実施要項（案）を作成（日本語版・英語版）	—	◎
	取りまとめ	競技別実施要項概要を取りまとめ、IMGAに提出	◎	—
競技別実施要項公開		競技別実施要項を大会公式ホームページで公開、関係機関への通知	◎	—

■スケジュール

スケジュール	内容
2017年度	
	【実行】 競技日程案を含む競技別実施要項概要を作成
	【組織】 競技別実施要項概要を取りまとめ
2018年度	
	【実行】 競技別実施要項を作成
	【組織】 IMGAに競技別実施要項を提出
2019年度	
	【組織】 大会公式ホームページで公開
2021年度	ワールドマスターズゲームズ2021関西



競技役員等の編成

■業務内容・役割分担

- 競技種目ごとに別表の競技役員等を編成する。
- 府県競技団体と密接な連携のもと、各競技会の円滑な競技運営に万全を期すため、競技役員等編成基本方針に基づき、競技役員等の適正な編成を行う。
- 組織委員会及び府県政令市実行委員会が、開催地市町村及び当該府県競技団体等と十分協議して編成を行う。

<別表> 競技役員等の定義及び編成方法

主に競技会(試合等)運営に携わる役職

役職名	定義	編成方法
競技会役員	各府県政令市実行委員会役員等及び顧問・参与	会長、副会長、常任委員、監事、顧問、参与
テクニカルデリゲート	競技の技術代表	競技実施要項等の作成に携わり、競技運営がルールに基づいて行われていることに責任を持つ者であり、実行委員会が中央競技団体と協議の上選出
審判員	直接競技の審判に携わる者	原則として、府县市町村の有資格者をもって編成し、必要に応じて中央及び近隣の競技団体関係者を含めて編成
競技役員	直接競技の運営に携わる者(審判員を除く)	原則として、開催する府县市町村の競技団体関係者と開催地市町村関係者等をもって編成することとし、必要に応じて近隣の競技団体関係者を含めて編成
競技補助員	競技役員等の補助として、競技の運営に携わる者	開催地市町村及び周辺市町村に在住する当該競技関係者をもって編成

主に競技会場の運営に携わる役職

役職名	定義	編成方法
運営係員	競技会を支援する業務に携わる者	府県政令市実行委員会関係者等をもって編成
運営補助員	運営係員の業務の補助に携わる者	開催地市町村及び周辺市町村に在住する者をもって編成

■業務分担表

項目	業務概要	組織委員会	実行委員会
基本方針の作成	競技役員等編成基本方針を作成	◎	—
テクニカルデリゲートの選出	府県政令市実行委員会は、中央競技団体と協議しテクニカルデリゲートを選出 組織委員会は、選出されたテクニカルデリゲートについてIMGAの承認を受ける	◎	◎
競技役員等の編成案を作成	府県競技団体と協議し、競技役員等の役職別編成数(必要数)について検討し、編成案を作成	—	◎
競技補助員の動員計画の編成	府县市町村教育委員会を通じ、当該学校長へ競技補助員動員の協力依頼を打診し、補助員動員計画を作成し、該当校へ協力を依頼	—	◎
競技役員等の編成	組織委員会は、府県政令市実行委員会へ編成案の見直しを依頼。府県政令市実行委員会は、府県競技団体と協議し、編成案の見直しをもとに、最終編成を作成し、組織委員会へ提出。また、審判員、競技役員及び競技補助員の名簿を作成	○	◎
運営係員の編成	府県競技団体と協議し、運営係員を編成	—	◎
委嘱業務	競技会役員、審判員、競技役員及び競技補助員の委嘱状を作成し、委嘱状の筆耕、及び発送	—	◎



競技役員等の編成

■スケジュール

スケジュール	内容
2017年度	
	【組織】 競技役員等編成基本方針の作成
	【組織】 テクニカルデリゲートの選出
2018年度～	
	【組織】 テクニカルデリゲートの I M G A 承認
	【実行】 競技役員等編成案の作成
2019年度～	
	【実行】 編成案の見直し
	【実行】 競技補助員動員計画の作成
2020年度	
	【実行】 競技役員等最終編成、運営係員の編成
	【実行】 競技役員等の委嘱
2021年度	ワールドマスターズゲームズ2021関西



競技施設・用具の整備

■業務内容・役割分担

- 競技施設及び用具は、可能な限り既存の施設・用具を使用するものとし、競技運営に支障がないよう計画的に整備する。
- 組織委員会と府県政令市実行委員会は、密接な連携のもと、競技用具整備基本方針及び競技用具整備計画に基づき、競技会の運営に万全を期するために、中央競技団体及び府県競技団体の協力を得ながら、競技の実施に必要な競技用具の整備を行う。
- 組織委員会は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを引き継ぐという観点からも、東京オリンピック・パラリンピック競技大会で使用した競技用具の有効活用について検討する。

■業務分担表

項目	業務概要	組織委員会	実行委員会
基本方針の作成	競技用具整備基本方針を作成	◎	—
整備計画の作成	府県競技団体と協議の上、整備品目、規格、数量、整備方法（現有活用、借用、購入）、整備年度、整備金額等を内容とする整備計画を作成	○	◎
整備計画の見直し	整備計画の見直しを行うとともに、競技用具整備に必要な手続きを実施	○	◎
競技用具の整備	整備計画に基づき競技用具を整備	○	◎

■スケジュール

スケジュール	内容
2017年度	
	【共通】 I M G A 競技会場視察
	【組織】 競技用具整備基本方針の作成
	【実行】 競技用具整備計画の作成（～2018年下期）
2019年度	
	【実行】 競技用具の整備
2021年度	ワールドマスターズゲームズ2021関西



表彰業務

■業務内容・役割分担

- 組織委員会はメダルを制作し、府県政令市実行委員会は、公式競技に入賞した個人及び団体に対してメダルを授与する。
- メダルは、各競技、各カテゴリーの1位から3位までに授与する。
- 授与するメダルは、正式競技はIMGA公認メダルとし、オープン競技は組織委員会公認メダルとする。

■業務分担表

項目	業務概要	組織委員会	実行委員会
メダルの規格の決定	規格、素材、デザイン等の検討・決定	◎	—
メダルの必要枚数算出	各府県政令市実行委員会に対して必要数の調査を実施	◎	—
	必要数を算出、組織委員会へ報告	—	◎
メダルの配付	組織委員会は、メダルを制作し各府県政令市実行委員会に配付 各府県政令市実行委員会は、受領し保管	◎	○
表彰	被表彰者にメダルを授与	—	◎

■スケジュール

スケジュール	内容
2018年度	
	【組織】 メダルの規格、デザイン等を決定
2019年度	
	【実行】 メダルの必要数を算出し、組織委員会へ報告
2020年度	
	【組織】 メダルを制作し、府県政令市実行委員会に配付
2021年度	
	【実行】 被表彰者にメダルを授与
2021年度	ワールドマスターズゲームズ2021関西



競技別プログラム、組合せの作成

■業務内容・役割分担

- 府県政令市実行委員会は、競技別プログラム、組合せの原稿を作成する。
- 組織委員会は、府県政令市実行委員会及び府県競技団体等と調整を図りながら、競技別プログラムを取りまとめ、参加者や関係機関へ配布する。
- 競技別プログラムには、次の事項を記載する。
 - ① 主催者代表等のあいさつ
 - ② 実施要項
 - ③ 会場図
 - ④ 競技日程
 - ⑤ 組合せ表
 - ⑥ その他必要な事項

■業務分担表

項目		業務概要	組織委員会	実行委員会
競技別プログラムの作成	作成の説明	府県政令市実行委員会へ作成趣旨、掲載内容、規格等を説明	◎	—
	原稿の編集	府県競技団体等の協力を得て、原稿作成・編集（日本語版・英語版）	—	◎
		主催者代表等のあいさつ文など全競技・行事に共通する原稿の取りまとめ（府県政令市実行委員会へ提供）	◎	—
	印刷・配布（データ配布可能）	関係機関・団体に配布。組織委員会へデータ提供	—	◎
取りまとめ・配布	すべての競技別プログラムを取りまとめ、大会公式ホームページで公開 スポーツ庁、日本体育協会、報道関係等へのデータ配布	◎	—	
組合せ等の作成	組合せ等の作成	府県競技団体が主体となり、府県政令市実行委員会が協力して組合せを作成	—	◎
		組合せ等作成終了後、速やかに組織委員会に抽選結果を報告	—	◎
		組織委員会は、組合せ等を参加者に通知 府県政令市実行委員会は、急な変更があった場合に必要な修正を実施	◎	◎

■スケジュール

スケジュール	内容
2019年度	
	【実行】 競技別プログラム、組合せ作成
	【組織】 競技別プログラムを取りまとめ、大会公式ホームページで公開
2020年度	
	【実行】 参加者数に合った競技別プログラム、組合せの作成
2021年度	ワールドマスターズゲームズ2021関西



記録業務

■業務内容・役割分担

- 組織委員会及び府県政令市実行委員会は、記録業務基本方針に基づき、それぞれ記録・結果本部を設置し、迅速かつ正確に競技記録を収集するとともに、国内外の参加者に速報する。
- 組織委員会、府県政令市実行委員会、関係競技団体等は、記録業務を分担し、相互に連携を図りながら、正確かつ迅速に記録業務を推進する。

■業務分担表

項目	業務概要	組織委員会	実行委員会
基本方針の作成	記録業務基本方針の作成	◎	—
競技記録責任者の選任	府県政令市実行委員会及び府県競技団体は、競技記録責任者を選出	—	◎
記録業務説明	競技記録責任者の業務統一を図るため、府県政令市実行委員会に対して記録業務の概要、業務の具体的内容等について説明	◎	—
記録・結果本部の設置	組織委員会及び府県政令市実行委員会は競技の実施状況、競技記録等を取りまとめ、処理・速報するため記録・結果本部を設置	◎	◎
記録・結果班の設置 (競技会場)	競技記録等を処理及び速報し、結果・記録本部へ送信するため競技会場に記録・結果班を設置。複数の会場で実施される競技については、競技記録集約会場を決定	—	◎
大会記録・結果本部の主な業務	・全競技の競技記録等の収集・速報（報道・インターネット） ・記録・成績等に関する照会の対応	◎	—
記録・結果班の主な業務 (競技会場)	・競技の実施状況の把握 ・競技記録等の取りまとめ及び競技記録等及び記録・結果本部への送信、競技会場での速報 【競技記録集約会場】 ・その他の競技会場の競技記録等の取りまとめ、記録・結果本部へ報告	—	◎

■スケジュール

スケジュール	内容
2017年度	
	【組織】 記録業務基本方針の作成
2019年度	
	【実行】 競技記録責任者の選任
2020年度	
	【共通】 記録・結果本部の設置
	【実行】 競技会場に記録・結果班の設置
2021年度	ワールドマスターズゲームズ2021関西



ドーピングコントロール

■業務内容・役割分担

- 組織委員会は国際マスターズゲームズ協会（IMGA）と協議し、検査実施競技や検体数等を決定する。
- 組織委員会は、日本アンチドーピング機構（JADA）と契約し、検査を実施する。
- ドーピング検査実施競技を開催する府県政令市実行委員会は、検査に協力する。

■業務分担表

項目	業務概要	組織委員会	実行委員会
ドーピング検査基本方針	IMGAと協議し、検査実施競技、検体数等を決定	◎	—
JADA加盟及び契約締結	日本アンチドーピング機構に加盟、契約を締結	◎	—
ドーピング検査の実施	組織委員会はドーピング検査を実施 府県政令市実行委員会はドーピング検査に協力	◎	○

■スケジュール

スケジュール	内容
2019年度	
	【組織】 IMGAと協議しドーピング検査の詳細を決定
2020年度	
	【組織】 日本アンチドーピング機構と契約を締結
2021年度	ワールドマスターズゲームズ2021関西